砂漠の血管、命の水道管。

中東・砂漠の街々―発展を続ける中東各国の都市は、しかし、一歩を踏み出せばそこに広大な砂漠の広がる、灼熱の街でもある。そこにある共通した問題―「命を支える水」を安定的に確保すること―は、発展の表裏として、人々を悩ませ続けてきた問題でもある。

・

『過酷な中東の環境下、広大な砂漠を越え、遥かな海から、淡水化した水を、その水質を損なうことなく安定的に運ぶことは出来ないものなのだろうか』

・

クボタは、そんな「高い壁」に、真っ向挑戦しています。

アラブ首長国連邦、クウェート、カタール―砂漠に広がる中東各国の「国家的上水道プロジェクト」の、その水を運び続けるという、根幹の役割を託されたのは、総延長数百キロに及ぶクボタのダクタイル鉄管でした。それは、過酷な砂漠の環境にも耐えうる「卓越した品質性」、何十年にわたりその地で培った「揺るがぬ信頼性」、長さ九メートルの鉄管を作りうる「世界唯一の技術性」―そしてついに、クボタのダクタイル鉄管は、これら途方もない国家プロジェクトの一翼を、過酷を極める砂漠の地中で寡黙に担うこととなったのです。

最高気温五〇度を超える、果てなき灼熱の大地。今日もクボタは、その地中深くで、その地に住む人々の「命を支える水」を運び続けている。物言わず、人目につかない砂漠の何処かで。

壁がある。
だから、行く。

株式会社クボタ

For Earth, For Life
Kubota